RC・LC・JC・キワニス ニュース

安城ロータリークラブ 沓名 俊裕さん

会長に聞く

クラブの価値見つめ直す

被災地にテントを寄贈

創設から丸54年を迎える安城ロータリークラブ。2011～12年度の会長に就任した沓名俊裕さんは、「ロータリークラブは端境期を迎えている」と語る。クラブの価値を見直し、奉仕活動による社会貢献に力を入れることを決めた。沓名会長に本年度の運営方針などについて聞いた。（安城）

「奉仕活動に力を入れて、クラブの存在価値を高めたい」と話す沓名会長

略歴　くつな・としひろ　1951年（昭和26年）生まれ。60歳。1995年に安城ロータリークラブに入会。幹事や会長エレクト、社会奉仕委員長などを歴任した。東祥社長。趣味は読書、ゴルフ、世界遺産めぐり。

―本年度のテーマに「Let's Enjoy ROTARY」を掲げた。

「『ロータリークラブを楽しもう』という思いを込めた。今あるロータリークラブを、どのようにすれば楽しめるか。考えて、行動に移すことが、震災の復興支援としてそれぞれ一つの活動を立案する。まずは東日本大創出につながると考えたためだ」

―その一環として、本年度は奉仕活動に力を入れる。

「これまでのクラブ活動は、会員同士の親睦が中心だった。クラブや会員を取り巻く環境が変化するなか、クラブ活動も変化させる必要がある。対外的に評価してもらえる活動も行い、クラブの価値を高めたい狙いがある」

―奉仕活動の内容は。

「5つの奉仕委員会が56人で、会員増強で70人にする。現在の会員数は委員会当たり1人の新会員に入会してもらうようまで増やしたい」

「これらの活動が評価を受けることで、会員の意識も高まってほしい。会員の周囲の方にも波及し、会員の増強につながることを期待している」

―会員増強にも力を入れる。

「17ある委員会が、1入会してもらいたいと思う。一部の会員が現地を訪問し、直接手渡した」

「学校への職業案内と年度は奉仕活動に力を入れる。仕事に関する説明を行い、将来の目標に役立ててもらう。また、緑化活動として、安城市の植樹祭に参加し、市内の公園に『シンボルツリー』となる樹木を植樹する。そのほか、『国際奉仕』や『児童虐待問題』に関する活動を行う予定」

―「楽しいクラブ運営」

「『来るもの拒まず』『同伴者も連れてきて良い』『割り勘』と単純にしている。例えば、ランチ同好会。女性はグループになり、ランチを楽しむことが多い。一方で男性は少ない。女性を見習って、会員も昼食時に世間話を楽しんでほしい」

「例会運営にも工夫を施す。これまで会場委員会が設営作業を担ってきたが、負担は大きかった。作業を外部の事業者に任せ、委員会には会員への声かけ、あいさつなど違う視点で例会運営に気を配ってほしい。そのほか、安城RCのホームページの作成、新会員への丁寧な研修などを行う」

「会員増強のためにも、入会してもらいたいと思えるクラブにしなければいけない。クラブの価値の向上に向けて、会員増強と奉仕活動の歯車をかみ合わせる」

「また、本年度は、インターアクト年次大会を開催したほか、ガバナー補佐杯ゴルフ大会やIM（インターシティーミーティング）を開く。充実したクラブ活動になるだろう」

メモ

☆会員数＝56人
☆事務局＝安城市御幸本町15の1　碧海信用金庫本店3階

障害者支援施設で交流会

清掃や太鼓演奏会 大垣工高生と〝汗〟

大垣中ロータリークラブ

大垣工高太鼓部の演奏は今年も障害者を楽しませた

大垣中ロータリークラブ（安田勇会長）はこのほど、大垣市古宮町の障害者支援施設「柿の木荘」で、毎年恒例の交流会を開いた。厳しい暑さの中、同施設で施設利用者、岐阜県立大垣工業高校生徒らと一緒に汗を流しながら清掃活動を行った。清掃後は同校太鼓部の太鼓演奏会が開かれ、利用者は楽しそうだった。

今年の交流会には、同クラブの会員、施設利用者とその保護者、大垣工高校のインターアクト同好会、同校太鼓部員の計約160人が参加。同クラブからは安田会長はじめ10人が参加した。

まず、全員で施設敷地内とその周辺で草取りを実施。その後、大垣工高太鼓部の演奏会が行われた。躍動感の鼓部員の計約160人ある3曲が演奏され、が参加。同クラブから感激した利用者らからは安田会長はじめ10人アンコールの声がかかった。

交流会は、16年ほど前から行われる同クラブの恒例事業。毎年、同施設で清掃活動と大垣工高太鼓部の演奏会を実施し、利用者と同クラブ、同校生徒の交流を深めている。（大垣）

猛暑の中、清掃活動に取り組む大垣中ロータリークラブの会員

DOMESTIC CONTENTS